



聖書翻訳史から見る歴史・言語・文化

キリスト教の正典である旧・新約聖書はヘブライ語とギリシャ語で書かれ、今では部分訳も数えると 3,600 以上の言語に翻訳されていますが、その成立と翻訳の歴史には、当たり前前に日本語の聖書を手にする私たちには思いもよらないドラマがあるのです。今回の講座では「聖書翻訳史」を題材に、歴史や言語や文化とは何かについてご一緒に学びましょう。

木曜日開講

13:30～15:00

- | | | |
|---|-------|------------------------------|
| 1 | 7月4日 | 聖書の成立、古代訳から宗教改革まで |
| 2 | 7月11日 | 翻訳とは何か～日本語訳・現代訳・様々な翻訳の限界と可能性 |

講師

澤村 雅史

名古屋学院大学スポーツ健康学部教授。

1967年青森県青森市生まれ、小学校～大学までを北海道小樽市で過ごす。川崎重工業株式会社勤務を経て、関西学院大学神学部・同大学院神学研究科に学び、日本キリスト教団春日東教会（福岡県）、広島女学院大学を経て2023年4月より現職。

講義の対象

初学者むけ。予備知識は不要です。

受講者へのメッセージ

- ・内容に関連があるため2回とも受講してください。
- ・ご自宅に聖書があればご持参ください。

定員

15名

受講料

2,000円